



特集

一〇〇回を超え、ますます 活況を呈する清陵勉強会

東京清陵会だより一九号は、二〇〇八年八月に一一一回を迎えた清陵勉強会を、より多くの同窓生に知っていただくための特集号としました。一八年の歴史を持つ勉強会では九六名の方々に講演をいただきましたが、本特集では講演者の中から一名の方々に、現在の状況を講演当時と対比する形で、「清陵勉強会と現在の私の活動」のテーマで寄稿いただきました。

「清陵勉強会」は、一九九〇年、宮坂広作(五〇回)、中村平治(五〇回)、岩垂弘(五七回)の三氏が創立世話人となり、東大赤門を入ったすぐ近くの教育学部の教室で、自主的に開いた一種の研究会組織である。

多くの同窓生が、各方面で活躍し、色々なジャンルの研究に、また実務に、優れた実績を挙げていることは、現在も変りはないが、これを知る人はあまり多くなく、当時、何とかこれを知らしめ、それぞれの人たちの挙げられた成果を披露してもらうことは出来ないだろうかということが、発想の基本であった。事務局は寺島亮三(五八回)、矢崎悦郎(五九回)の両氏が担当した。



第109回三橋ひさ子氏の講演風景

年末や多忙な講師の都合などで日程が多少変更されることはあったが、二月に一度、偶数月の最終火曜日の夕方に会合をもつことを原則とし、ほぼ守られて来た。そして二〇〇六年八月、一度も欠けることなく満一〇〇回を迎

えた(講師と講演テーマの一覧は一〇一面、一一面に別掲)。

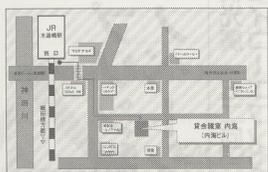
「清陵勉強会」と銘打ったので、講師の多くは清陵OB、OGに依頼することが多かったが、テーマによっては、創立メンバー、事務局担当者または参加者の個人的な知合い、友人関係などのツテ等を通じて、清陵高校とは全く関係のない講師を招聘したりもしたが、謝礼も交通費も出る訳でもなく、ただ、終了後の小酌には招待する(話題によっては、議論の続きがされたりする)というだけだったにもかかわらず、そのことが理由で断られたことは、唯の一度もなかった。

また、当初本郷の東大教育学部の教室を借りて開いていたが、創立者の一人宮坂広作氏の東大教授の定年退職と、場所が地下鉄本郷三丁目駅の近くであり、今少し都心に近い新しい場所を探していたところ、大手出版社三省堂の当時役員(後に社長)であった五

味敏雄氏(五七回)の好意で、JR水道橋駅至近の三省堂社屋六階の会議室を無償で借りられることとなり、この極めて至便の場所に会場が確保出来たことは、この会が長続した大きな要因であった。もちろん会員諸氏や運営に当たった人々の熱意は言うまでもないが、当時連絡通信費ということで、出席者からは一〇〇円徴収しただけだった。

その後、五味氏の退任と共に、近くの貸会議室(地図参照)を借りて続けられているが、また、同時に世話人体制も、若い血を導入した方がよいというところで、一〇一回からは、米山雄男(六三回)、飯島由美子(七〇回)、山田雄一(七三回)、有賀一温(七五回)の諸氏が事務局を担当し、最新のITの話題、医学の最新医療の実態など、テーマや話題、新しいジャンルもふんだんに盛り込まれている。そして、貸会議室を借りていることから、現在も出席者からは五〇〇円を徴収しているが、出席者の人数は減ることはなく、テーマによっては、諏訪から駆けつけて来る熱心な会員もある。

会場:「貸会議室 内海」101会議室
JR水道橋駅西口徒歩2分
〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-6-15
TEL 03-3261-0017



事務局:米山雄男(63回)
〒264-0033 千葉県若葉区都賀の台2-17-3
mk-yone@tbr.t-com.ne.jp

2008年度 東京清陵会 第42回定期総会案内

日時=2008年10月17日(金) 午後5時~8時30分
総会=午後5時~6時 懇親会=午後6時~8時30分
(午後4時30分より受付開始)

場所=アルカディア市ヶ谷(私学会館)5F「赤城」・3F「富士」
東京都千代田区九段北4-2-25 TEL 03-3261-9921
市ヶ谷駅(JR, 東京メトロ有楽町線, 南北線, 都営新宿線下車,
徒歩2分)

議題① 2007年度会務報告 決算報告 ② 2008年度事業報告 予算案
③ 賛助金の納入状況 ④ その他

懇親会=会費 8,000円(学生2,000円)

※当番幹事=75回生, 次期当番76回生, サブ幹事85回生, 95回生

●ご面倒ですが出席、欠席いずれの場合でも同封の返信用葉書にご記入の上、10月8日(水) 必着にてご返送ください。

No.1

「南洋東亜の人の子に」考

中村平治(五〇回)
東京外国語大学名誉教授



激動期、旧制から新制へ一九四四年

四月から四五年の敗戦を経て六年間清水ヶ丘の学び舎にあった。その私たち諏訪清陵高校の五〇回生は今年喜寿を迎える。授業上、新制社会科の「世界史」と「日本史」は疎遠に過ぎたが、「時事問題」には教室の放つ熱気に引き寄せられた。歴史は暗記モノだという妄説が不作為犯的に教室内外で横行していたが、本来、世界史と日本史とは相互に不可分の関係にある。具体例として、かのアジア・太平洋戦争の一部を成す大東亜共同宣言があり、今一つは東京裁判である。

一九四三年一月、戦争の只中、東条英機首相はインド出身のオプザーヴァーを含め、汪兆銘(中国)、張景惠(満州)、H・P・ラウレル(フィリピン)、バー・モウ(ビルマ)とワン・ワイ・タヤコーン(タイ)といった六人の指導者を東京に招き、大東亜会議を開催した。政府の音頭で採択された宣言では、各国が「大東亜の共存共栄を建設し、経済発展を図り、資源を開放する」や、「東亜諸民族の自主独立」が掲げられた。しかし如何にも安普請の建物と同様、この宣言には二つの疑問点が存在する。

宣言中の資源開放論とは日本による

植民地支配を前提とする資源略奪論に他ならない。ところで清陵の第二校歌(一九〇三年)には、自由民権運動の政治・思想状況の余波を受けたものか、「南洋東亜の人の子に 尽くさでやまむ 心かと」とある。今日風に云えば、日本とアジア・アフリカ・ラテンアメリカの民衆との連帯を呼びかけているが、ここには日本人が南洋や東亜の人々に対等に接し、彼らの要望に応えようとする、無償の行為の持つ美学がある。ここに底流する一種のヒューマニズムが時代の風雪に耐え、歌の生命力の持続を可能にした。歌の若干の語句には異論無しとしないにせよ、この校歌の世界と、大日本帝国の物欲しげな立場とは明らかに矛盾し、対立するものである。

当時の日本の立場に疑惑を投げかける第二の問題が共同宣言に見られる。それは発表された日本語の文章と、同時に発表された英語の文章との間の内容面に見られる乖離である。日本語では東亜の自主独立を説いているのに対して、英語の文章ではsovereignty and independence とある。自明の事ながら、それは主権と独立と訳すべきであ

る。かくてこの会議の席上では日本の指導者は、ご粗末にも二枚舌を行使していたことが判明する。英語を理解する、植民地支配の負の遺産を担うアジア諸地域の指導者たちに対しては、政府は主権と独立、つまり民族自決権を口にする一方で、日本語では自主独立といった意味不明の用語でその場凌ぎを試みていた。

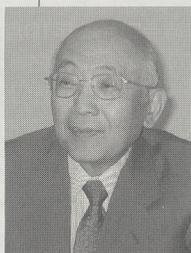
さらに東京裁判(極東国際軍事裁判)における、インド人のパール判事によるA級戦犯の無罪判決問題がある。裁判では一九四八年一月二日に東条を含む被告全員に有罪判決がなされた。一九八九年、これに関連する新事実がインドで明らかにされた。この裁判の進行途次の一九四七年八月にインドはイギリスから独立するが、初代首相ネルーは同判決の直後に西ベンガル州知事宛の書簡で、「パール」判決では、我々がその多くについてまったく同意しない、的外れで雑駁な法廷陳述がなされた。…我々はその陳述について一切の責任を有しない(一九四八年一月二九日)と述べた。ネルーの別書簡では、同判事が「インド政府の代表としてではなく、個人の資格で裁判に参加していたに過ぎない」旨が強調されていた。近時、メディアの巷で人騒がせな、パール判決の絶賛論はすべて無視可能である。

自省の学としての歴史学は大東亜共栄圏に及ぶ大アジア主義の再検討と共に、現代アジアの諸国間における連帯の有り様の追求を私たちに提起している。

No.2

エプソン物語とイノベーション

土橋光廣(五二回)
元セイコーエプソン(株)専務取締役



今(二〇〇七年八月)ほど「イノベーション」が必要な時はない。わが国にイノベーション論が登場したとき、技術革新と訳されたため、「イノベーション」の意味はもつと広い。エプソンの誕生から発展と停滞の歴史と物語を通して、日本の企業や経済のかかえる問題と、ふるさと信州・諏訪に求められるイノベーションの方向を考えたい。

一、イノベーション理論と経営
はじめに、イノベーション論を展開したのはオーストリアの経済社会学者のシュンペーターである。
①シュンペーターのイノベーション論(経済発展の理髪論)
経済発展は企業家の継続的変革(イノベーション)によっておこる。イノベーションは技術だけでなく、製品・プロセス・組織文化をふくめて起こり、次の二つがキーワードである。
【新結合】：生産諸要素の新しい結合による非連続的創造

【創造的破壊】：経済活動の革新による構造破壊と創造(パラダイムシフト)
②ドラッカーのイノベーション
「イノベーションは昨日の世界と縁を切り明日を創造することだ」

『すでに起きた未来』

二、エプソンの誕生と発展(イノベーション・シリーズ)
時計という伝統的な産業にあつて、企業文化の革新に挑戦し、蓄積された技術革新の成果の新結合によりプリンタ事業をおこし、情報産業へ参入、世界的ブランド「エプソン」をうみだした物語(起業・発展・停滞の歴史)を語る。その中に、かつて高度成長の成体験のパラダイムからのがれられず、二一世紀のパラダイムシフト(創造的破壊のイノベーション)へ対応ができず不毛の十数年をかこっている日本企業共通の課題と重ねて語る。

●時計の電子化、水晶時計(装置)の腕時計化への挑戦(諏訪精工舎(一九五〇年代))
●水晶時計による計時システム(プリンティングタイマー)開発と東京オリピックでの公式計時担当(SEIKO)(一九六四年)
●小型メカプリンタEP-1101発表・発売、情報分野へ進出、新組織・企業文化の創造と挑戦【エプソンの原点】：新しい文化遺伝子の誕生(一九六七年)
●プリンタ専門工場広丘工場(塩尻市)

完成と情報機器開発体制の強化(一九七〇年)

●PC用プリンタ(TP80)の発売とEPSONブランドの制定と営業・マーケティング体制の強化(一九七五年)

●オフィスコンピュータ(EX1)発表、コンピュータ事業へ参入、販売・サービス体制の構築(一九七八年)

●中国での「改革開放宣言」(鄧小平)にあわせ現地調査・中国進出戦略の検討。現地政府とのコンタクトと工場進出構想の決定(一九八〇年)

●ハンドヘルド・コンピュータ(HC20)、日本語ワープロ、PC、IBM/NEC互換PCの発売

●インクジェットプリンタ時代の幕開け(創造的破壊の一九八四年)

●ネットワーク時代の幕開けに備え、ソフト・ソリューション先進企業との提携路線の構築(DEC、ボーランド、ノーランド等)への挑戦。しかし、イノベーションのディレンマ(リスクテイキングへの意見衝突)により提携の解消。関係メンバーの大量退社・分散。ハードウェア堅持路線と停滞のはじまり(?)。

●八〇年代までの「ものづくり中心・輸出志向の成功体験」が、日本の新ネットワーク時代への対応、グローバル化へのイノベーションを遅らせている(Japan as No.1シンドローム)。エブソンはその典型ではないだろうか?

三、ネットワーク時代(Web20+ユビキタス)のイノベーション
インターネットの急激な普及とI

T・通信技術・新サービスやビジネスモデルの登場により、オープンネットワークによる個人参加の知識循環社会のプラットフォームが世界に形成され、新結合・創造的破壊の舞台があらわれた。(情報流通の円滑・拡大、ユーザー主体・集合知の世界)。

多くが、USA主導で、追従する日本は、サービス化する社会変革がともなわれないし、生産性が低く、国のGDP成長率が先進国で最低という十数年の不況経済にみまわれることになった(二〇〇二年からの景気回復でも成長率〇・八%)。また、ヨーロッパの小国(フィンランドなど)にくらべ、日本の国際競争力ははるかに低いと評価もされているし、福祉とは遠い国になる。

かつて、世界第二位のGDP、一人当たりGDP(生産性)を誇った日本の地位は、第十八位に転落し日本の格付けが国際的に低下、さらに、鎖国感覚のつよい日本への投資を避けようという国際的な動きが顕著である。

七〇、八〇年代の成長のパターン(よいものをつくり、輸出してかせぐという日本のつよみであった産業構造「Japan as No.1」や、経済の対外開放のグローバルイズムの遅れなどからの進化やイノベーションがもたらされてきている。

四、ITとイノベーションによる諏訪の地域振興
新時代に日本に必要な、最大のイノベーションは、官僚機構と政治家癒着の構造の「創造的破壊」であり、地方自治

治の確立(道州制など)であろう。

地方に政策・税制の権限を思い切つてあたえることになれば、明治維新以来最大のイノベーションになるはずである。

地域振興は、自立的に雇用・税収増を産み出す資源(技術・産品・景観観光サービスなど)をいかすための官民共同の施策である。諏訪湖周辺での「ものづくり小国」では、かつての繁栄をとりもどすことは難しい。小都市

諏訪の産業の歴史

・江戸時代

>寒天、酒、みそ、建築(立川流)、出稼ぎ(海苔)

・明治・大正・昭和

- >製糸業:富岡製糸所見学後、岡谷を中心に、天竜川の水、水車動力開発、銀行・学校、米国(相場市場)と直結... (片倉・丸中、丸興等)
- >鉄工所:ものづくりの基礎、ひとづくり(平野屋、駿河屋)
- >東洋バルブ:製糸工場用バルブから船舶・軍艦用バルブ、軍需工場指定、大砲信管、人材を育て、独立して精密工業の起業(三協、ヤシカ、など)

ITとイノベーションによる諏訪の地域振興

地域振興は、自立的に雇用・税収増を生み出す資源(技術・産品・観光など)をいかすための官民共同の施策

- ・「ものづくり推進機構」「工業メッセ」の「ネットワークサービスSOA,SaaS」のスワモデルづくり(別図参照)
- ・都市・地域の経済再生のエンジン「創造都市」
工・農・サービス連携「環境配慮型社会」構想
農業のイノベーションに「ものづくり」のノウハウを!
- ・東京・山梨・信州につらなる「美の自然回廊」構想
ITネットワーク、自然、産業がいきる労働と生活の天国
森林・農業・農村・都市・企業の創造的効率的景観美
道州制への道付け? (権限・税源移譲、地域主体)

当日の講演資料の一部

No.3

「ニュース馬鹿」がやめられない

伊藤力司(五八回)
元共同通信社説論副委員長・ジャーナリスト

一九九〇年の清陵勉強会発足以来、出席率はかなり高いほどと自負している。いろんな分野の専門家の話が聴けるだけでなく、二次会で諏訪人同士隔意なく懇談することが楽しいからだ。やはり出席率が高く、勉強会の歴史を實質的に支えてきた五九回生の皆さんとは妙にウマが合い、勉強会発足以前から何回か酒席を共にして「勉強会をやるうや」と口説いた記憶がある。それにしても一六年間にわたり一〇〇回の勉強会を組織した岩垂弘(五七

題と観光(東京・山梨・信州につらなる世界的「美の回廊構想」)にも展開できるだろう。

もてる資源をいかし、新しい視点で企業誘致もできる。企業誘致(研究所・ソフト開発・環境保全企業・農業参入企業など)のポイントは人間誘致、生活環境・ネットワーク環境整備など地域主体の構想力・情報発信力が問われることなる。

いろいろな話をしたが、企業経営も地域振興も「昨日の世界と縁をきり明日を創造する」というドラッカーの言葉を理解し、「創造的破壊」に挑戦するリーダーの出現が待たれる。



回)、寺島亮三(五八回)、矢崎悦郎(五九回)の幹事各氏のご労苦には頭が下がる。矢崎氏作成の記録によると、私は第六回(九〇年一月)「中東情勢について」、第三六回(九五年一月)「最近のロシア事情」、第七五回(〇二年六月)「プッシュ政権の危険な世界戦略」の三回、登場している。実は第七二回(〇一年二月)にもタリバンについての講演を約束していたのだが、直前に尿路結石の発作で緊急手術ということになり、急遽代役に

立ってくれた山崎元一（五七回）、清水真幸（五九回）両氏と幹事、委員のみなさんに迷惑をお掛けした。今更ながらお詫び申し上げたい。

今となつては第六回、第三六回に何を話したか記憶は薄れてしまったが、第七五回にはイラク戦争を準備していたブッシュ戦略の危険性を指摘したことは、比較的はつきり覚えている。当時予想した通り、傲慢かつ粗雑なブッシュ政権は国連憲章違反のイラク侵攻に踏み切り、フセイン政権をあっけなく倒したものの現地武装勢力の手強い抵抗に逢い、泥沼に足を捕られて退くに退けない苦境に立たされている。

別に私に格段の先見の明があった訳ではない。中東情勢に詳しい人なら、イラクには多数派のシーア派と少数派のスニ派、独自のクルド人という三

No.4

キューバ訪問報告から ゲバラの娘さん招聘へ

岩垂 弘（五七回）
元朝日新聞社編集委員・ジャーナリスト

清陵勉強会がスタートしたのは一九九〇年二月のことです。清陵の同窓生を中心に世界と日本のあらゆる事象を勉強しよう、それも講師は各界で活躍する清陵の先輩をお願いしてノーギャラでやっていただこう——というまことにムシのよい企画でした。それが、延々と続き、一八年後の今も続いています。日本でも異例のことでしょう。

勢力が分立していること、フセイン政権とアルカイダは対立関係にあることなどは常識だ。また隣接するシーア派政治大国のイランとは、歴史的に微妙な関係にある。果たせるかな、その後イラクの政治、治安情勢は混迷また混迷。ブッシュ大統領は来年一月までの任期中にイラク解決は不可能、次の政権にこれほど厄介な問題を放り投げて去るといふ無責任ぶりだ。

とまあ、現役の記者生活を引退してから一四年も経つたが、相変わらずの「ニュース馬鹿」が辞められない。この号が発行される頃はオバマかマケインか、熾烈な争いを展開しているはずだ。米大統領選をはじめ国際ニュースの「追っかけ」から逃れられそうがない。



私は、第一回から二〇〇六年八月の第一〇〇回まで、世話人をやらせていただきました。この間の事務局は矢崎悦郎（五九回）、寺島亮三（五八回）の両氏。勉強会を長く続けることができたのも両氏のご奮闘に負うところが大きいと考えます。

世話人と事務局が一番苦労したのは、やはり講師の選定でした。引き受

けてくださる人がなかなか見つからなくて、世話人がピンチヒッターとして講師を務めたこともあります。一九九八年の第四九回勉強会で私が「キューバ取材を終えて——現地の最新事情」というテーマで話させていただいたのも、多分にピンチヒッター的な登板だったと記憶しています。

この年の二月、私は初めてキューバを訪れました。もともとこの国には以前から関心を持ち機会があれば訪問してみたいと思っていたのですが、たまたま生協関係者を中心とする訪問団があり、これに加わったわけです。実際に訪れてみて、中ソなど既成の社会主義国とは違った道を歩むこの国に大変興味を覚えました。勉強会では、その時の印象を報告させていただきました。

この時のキューバ初訪問を機に、日本ではキューバに関する情報が極めて乏しい、と痛感するようになりました。そのうえ、米国経由の情報が多いこと



講演するアレイタ・ゲバラさん。「2008年5月17日 明治大学リハビリタタータワーで」

No.5

需給タイト化とマネーゲームが 石油価格押し上げ

小川勝嗣（五九回）
元昭和化成(株)代表取締役社長

から、この国の実情がなかなか正確に伝わっていないと思うようになりました。そこで、五年前、友人・知人らと「キューバ友好円卓会議」を発足させました。キューバに関する情報を出来るだけ豊富に、しかも正確に日本の市民に伝えようという狙いからです。

この五月には、円卓会議とNPO法人アテナ・ジャパンの関係者からなる実行委員会が、キューバ革命の英雄

「エネルギーを巡る最近の話題」のテーマで話したのは一九九七年二月の清陵勉強会、京都議定書が採択されたCOP3の直後であった。化石燃料はいずれ枯渇の運命にある、代替エネルギーの開発実用化が急務であるとともに、CO2排出抑制の難しさを述べた。

あれからほぼ一一年、大きく変わったのはここ数年の原油価格の高騰である。代替エネルギーの開発は掛け声ほどには進んでいない。京都議定書は二〇〇五年二月にやっと正式発効にこぎつけたが、日本の場合、CO2排出量は増える一方で、一九九〇年度のレベルから六%削減の約束を守る為にはその後の増加分を含め一四%減らす必要が出てきた。それも既に二〇〇八―二

〇二二年の約束期間を迎えているのに、である。

チェ・ゲバラの長女で医師のアレイタ・ゲバラさんを招き、東京、京都、大阪、神戸、広島、那覇で、父・ゲバラとキューバ医療の現状について講演してもらいました。チェ・ゲバラ生誕八〇年を記念しての事業でした。各会場とも超満員でした。

清陵勉強会での報告がアレイタさん招聘活動につながって行ったのだ——私は今、そんな感慨に浸っています。



最近の原油価格の急騰ぶりであるが、「米WTI原油（テキサス西部中質原油）先物相場」は、一九八〇年代から一バーレル二〇ドル前後で推移していたが、二〇〇五年ころから上がり始めついに一四〇ドルを突破した（図参照）。石油市場がWTI価格を指標に動いているため、世界中が石油高騰にさらされている。この急騰は第一に原油需給のタイト化があげられる。例えば二〇〇四―二〇〇八の五年間で中国の石油需要は二四%も伸びている。この需給逼迫感が価格上昇の底流にあり、

この需給逼迫感が価格上昇の底流にあり、

る。第二に、イラク、イランなどの政
情や国際摩擦など、産油国の不安材料
が先物市場に影を落としている。

第三にはサブプライムローン問題か
ら派生した金融不安によって、投資フ
アンドの金が株式市場から原油先物市
場に流れ込んできた。金融不安が落ち
着きを取り戻せば原油価格も安定する
との期待感もあるが、根っこには需給
タイトという要因があるので、一〇年
前二〇年前のレベルには戻らない、む
しろ、じわじわながら右肩上がり推
移すると考えられ、いずれは二〇〇ド
ルの声を聞いてもおかしうはない。し
かし、そうなれば、世界経済全体を揺
るがすことになる。

それにしても、石油は人類全体の基
幹物資であり、それがマネーゲームの
対象にさらされているのはいかがなも
のかと、納得しがたいことではある。



日本は京都議定書の議長国であり、
今夏の洞爺湖サミットでは温暖化が最
重要課題になっている。日本のCO₂
排出は、製造業は省エネ等削減対策が
進んでいるが、家庭・商業ビル等の民
生部門、運輸部門などのCO₂排出は
増える一方で野放しに近い。二〇五〇
年五〇%削減をぶち上げているが、日
本の具体策はいまいちである。米国は
産業界の抵抗を配慮してか消極姿勢は
否めないし、インド、中国など途上国
の協力を取り付けないことには世界規
模でのCO₂削減は不可能である。つ

No.6

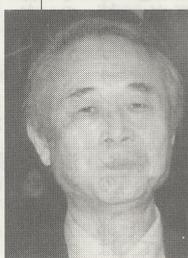
宇宙は有限である？

宮澤政文(六〇回)
元静岡大学教授・工学博士(航空宇宙工学)

人類初の人工衛星・スプートニクが
打ち上げられたとき、我々当時の若者
の多くは宇宙探査を新時代の「夢」と
捉えた。あれから半世紀たった今、宇
宙は夢とロマンに満ちているであらう
か？ 皮肉な話であるが、大げさに言
えば、宇宙空間はゴミに満ちている。

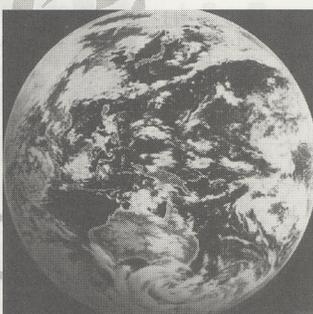
人間の打ち上げたロケットや衛星の
残骸及びその破片が「自然の法則」即
ち物理学の法則に従って地球の回りを
飛び続けており、その数、直径1cm以
上の物体は五〇万個以上、1cm以下に
なると観測できないので実態は分らな
い。これがSpace Debrisであり、宇宙
空間の汚染は近未来の有人活動にとつ

まるところCO₂は増えつづける、う
まくいっても、今世紀半ばころにやっ
とCO₂の増加が止まり横ばいになる
のが精一杯ではなからうか。
今までのような石油漬けの時代は過
ぎたことを認識するとともに、ライフ
スタイルの改革まで踏み込んだ施策が
今こそ必要だと思ふ。今出来る事は、
今の豊かさを維持しながら節約に務め
ること、個人の努力はささやかでも、
「地球にやさしい」ことは家計にもやさ
しい」ことを念じて行動することしか
ない。



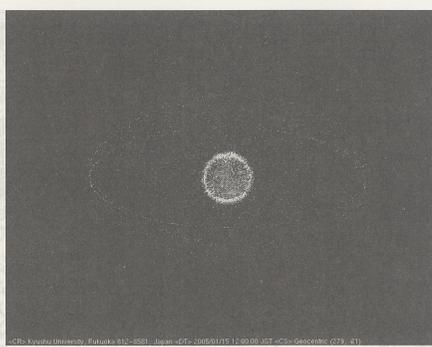
て危険レベルに近づいている。

国際宇宙ステーションに日本の実験
棟を取り付ける作業について、マスコ
ミが「新しい宇宙時代の幕開け」など
と素朴におだてる報道振りを見てい
て、いささか心配になったものだ。



静止軌道上の「ひまわり5号」から見た地球 1995年

昨年、中国が標的の衛星に対して地
上からミサイルを発射してこれを破壊
する、という軍事実験を行った。その
結果、新たに数万個の破片が発生した
筈である。数ヶ月後、アメリカも同様
の軍事実験を行った。驚くべきことに、
米中国のこの「蜜行」に対して、わ
が国の指導者や関係機関のリーダーは
正式に抗議声明も非難声明も出して
ない。

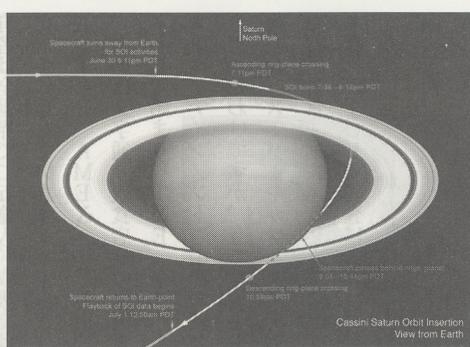


Space Debrisのイメージ(九大・八坂研提供 2006年)

大気汚染、海洋汚染、そして今や宇
宙空間の汚染、はなぜ起きたのであ
るか？ 恐らくその要因は、大気も海
洋も(地球周辺の)宇宙空間も、全て
が有限であることを人類が忘れていた
ことにあるのだろう。

一九四〇年代のこと、ロスアンゼ
ルスで最初のフリーウェイ(自動車専用
道路)が開通して間もなく、道路周辺
の住民が「何か変だ、自動車の排気ガ
スの所為ではないか」と騒ぎ出した。
このとき、フォード社のトップが「排
気ガスは無限の大気で希釈されるので
問題ない」と言明した、という話があ

る。そもそも「希釈」と言う考え方が、
環境破壊の思想であり元凶である。地
球も宇宙空間も無限ではない。

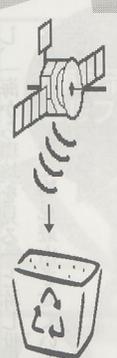


土星の素顔 Cassini計画 (NASA・ESA) 2004年

思えば、我々が初めて「無限大」と
「無限小」という概念に出会ったのは
高校時代であった。そのときの定義が
どこまで数学的に厳密であったのかは
別にして、我々が若いときにこの概念
を学んだことは事実である。

今日の世界の動きを見ると、
「有限と無限の質的な違い」を世界各
国の(政治・経済の)指導者たちは全
く理解していない。彼らはもう一度
「高校の数学」を勉強し直すべきであ
ると考えるのだが、如何であろうか？

古来稀なる齢を迎えた私も、危険度
の高い「バイオ施設」建設問題が身近
に迫ったため、押っ取り刀で「高校の
生物」の勉強を始めた次第である。



No.7

「海から見た地球環境」その後

功刀正行(六九回)
国立環境研究所元地球環境グループ・農学博士

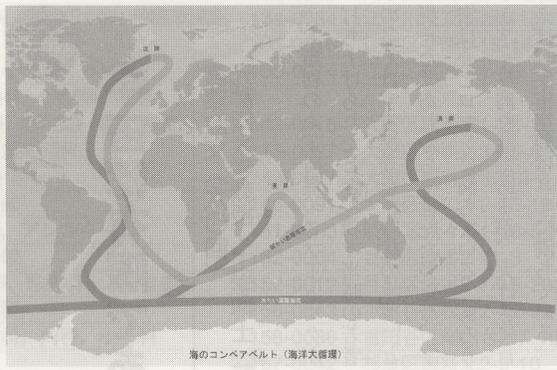
「清陵勉強会」では、「海から見た地球環境」というタイトルで、当時始めて間もない海洋環境に関するお話をさせていただいた。あまり記憶は定かではないが、当時解明されたばかりの深層大循環および硫黄循環のお話をさせていただいたのではないかと思う。

深層大循環「海のコンベアベルト」は、昨年ノーベル平和賞を受賞したゴア元副大統領の「不都合な真実」でも大きく取り上げられ、認知度が飛躍的に高まったことは記憶に新しい。北大西洋で沈み込んだ海水は、地球の自転の影響で深層をアメリカ大陸に沿って南下し、南極の周囲を回流している流れと合流し、一部はインド洋に、そして最終的には北部太平洋で湧昇している壮大な流れである。沈み込んでから湧昇してくるまでおよそ二〇〇〇年を有すると推定され、地球の気候の安定化に大きな寄与をしていると考えられている。特に欧州の気候への寄与が大きい。英国や北欧など欧州が高緯度の割に温暖なのは、この大循環が暖流であるメキシコ湾流を高緯度まで引き寄せているからであると考えられている。

最終氷期が終わり、間氷期に向かう



海のコンベアベルト(海洋大循環)



際に、急速に温暖化に向かっていった気候が、一挙に氷河期近くまで寒冷したことが様々な古環境解析によって明らかにされているが、これはこの「海のコンベアベルト」が停止したことが、原因であろうと推測されている。数年前の映画「The Day After Tomorrow」は、このイベントと科学的な推論をネタとしたものであり、全く荒唐無稽な話ではない。近年の二酸化炭素など温室効果ガスの急激な増加、およびそれに伴う温暖化により、北大西洋における海水の沈み込み量の減少が報告さ

れており、映画の再現を危惧する声もある。しかし、昨年出されたIPCCの第四次評価報告書では、沈み込みは弱まるものの今世紀中に停止することは無いと予想している。

一方、硫黄循環は、地球規模の気候変動の解析の際に重要な雲の生成に必要な役割を果たしている。意外に思われるかと思うが、雲に関する知見はきわめて不十分で、地球規模の気候変動の解析や予測にもその精度向上が重要とされている。硫黄循環と雲、一見関係なさそうであるがきわめて密接な関係にある。ガイア仮説で著名なラブロック博士が、一九七〇年代に海水から硫化ジメチル(DMS)を検出した。

DMSという何か恐ろしいものであるが、我々日本人にはとてもなじみ深い磯の臭いそのものである。海苔やアオサ、そして植物プランクトンの一部はDMSPという物質を細胞内に持っている。磯に打ち上げられた海苔やアオサに含まれるDMSPが微生物により分解されるとDMSが発生する。大気に放出されたDMSは、速やかに酸化され、やがて硫酸になり、大気中を漂う硫酸の液滴(ミスト)が実は雲の核となるのである。ここではごく簡単に説明したが、DMSを巡る循環はきわめて複雑であり、我々もとんでもない泥沼に踏み込んでしまったと何度も嘆いた。今も硫黄循環および雲に関する研究は多くの科学者が取り組んでいる。

私自身は、その後、東京清陵会だより一四号に書かせていただいたよう

No.8

「カード社会の現在と今後」その後

小泉史憲(七四回)
株式会社ライフ 常務取締役

昨年清陵勉強会の講師をさせていただき、その縁で、今回の「東京清陵会便り」に原稿を載せていただくこととなりました。

ご依頼は、「過去にお話したテーマの現在の状況に対する意見」と言うこととありますが、私の講演自体が昨年の一二月に行っただけであり、本稿ではむしろその講演の内容を改めてご紹介させていただきますながら、諸兄の御批評を承りたく存じます。

さて、平成一九年二月二三日、師走の多忙中、お集まりいただいた先輩諸氏に「カード社会の現在と今後：そのもつ光と影」と題したお話をさせていただきます。

全体の構成は五章立てで、クレジットカードの世界と日本の歴史からはじめ、現在の姿をカードの仕組み、システム、営業、ブランド戦略、電子マネー、カード犯罪等の側面から解説、それらを踏まえて若干の将来見通しをお話いたしましたものです。

紙面の都合上すべてを再現できません

し、「海から環境を見る」と称し世界各地の海、街を物見遊山させていただいてきた。感謝。



るので、講話のポイントと思われる点を若干ご紹介いたします。

まず第一点は、クレジットカードは、実は来年還暦を迎えるわけですが、まだまだ発展の余地を残す若い商品であることです。

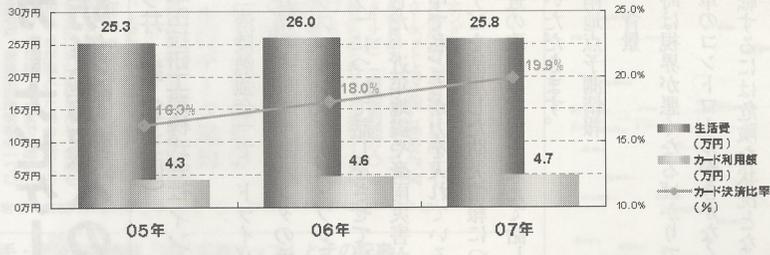
一九四九年の米国ダイナースクラブがその発祥ですが、現在ではカード保有者は全世界で二億五千万人、取扱高は六兆ドルに達しています(VISA, MASTERCARD, AMEX, JCB計)。

当初は文字通り飲食店での決済カードとして始まり、T&E(トラベル&エンターテインメント)中心の使われ方だったわけですが、今では税金や公共料金、スーパーやガソリンスタンドなど、日常生活に入り込んでいます。ちなみにJCBの調査によれば、日本でのクレジットカード利用は月平均四・五回、金額は四万七千円。生活費の二〇%がカード支払いされているとのこと。

また、派生として生まれたデビットカードは、たとえばイギリスでは、買

■ 世帯あたり月平均生活費 (N=2190) / カード利用額 (N=2317) 【経年】

※カード決済比率(%)は、世帯あたりの月平均生活費に占めるカード利用額の割合である。回答者個別のカード決済比率を算出し、その平均値を使用した



生活費に占めるカード利用のシェア (JCB調査2007より)

い物時にデビット(四二%)、現金(二二%)、クレジット(二二%)の順で使われるなど、クレジット以上に普及しています。

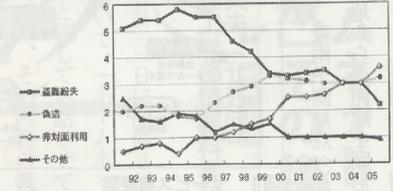
中国の銀連カードの伸長も脅威です。最近日本の家電量販店等での利用状況が話題になりますが、すでに一四億枚も発行されているとのこと、その数のすばらしさに驚かせられます。

勿論非接触IC電子マネー等の新しい商品も続々出ており、定期券等の他機能とのコラボで我々の消費生活を一層豊かなものに変えてくれます。

3. 現在の姿(6)カード犯罪 続き

カード不正使用 全世界ベース
カード不正を発生原因別に分析した資料によれば、2006年は大きな分岐点でそれまでほぼ同程度発生していた3原因のうちネットや通販等の非対面取引が最上位となり、ついで偽造が第二位。この2つは依然伸びている。第3位が盗難紛失でピークは1/3まで落ちている

■100ドルに占める不正利用額推移(単位:セント)



一方第二点としては、こうした成長は様々なカード犯罪も生み出してきたことです。少し前にはスキミングと言つてカードの磁気情報を盗み取る犯罪が流行りましたが、最近ではインターネットを悪用してのフィッシング詐欺(偽メールに誘導され、偽装の金融機関サイト等に個人情報等を入力して盗まれてしまう)など、一層手の込んだ犯罪も急増しつつあります。

官民挙げての対策を構じなければならぬ点も多く、業界としてもお客様に安心安全にご利用いただけるよう、日夜対応策を検討いたしております。

最後に、日本のクレジット業界の今後について触れておきます。相対的な成長を理由に新たなビジネス機会を求めて様々な業種からクレジット業務への進出が続いています。

NTTドコモのような通信系や最近ではゆうちょ銀行もクレジットカードの発行を開始しました。また、電子マネーでも交通系(特にスイカ)の伸び

No.9

清陵勉強会と私

柳澤治通(七五回)
前NTTドコモモバイル社会研究所副所長

は著しく、マーケットシェアの変動も顕著です。銀行(系カード会社)メガを中心に(統合中)を核とする業界構造も大きく変わりそうです。

一方既存カード会社の中には、イオ

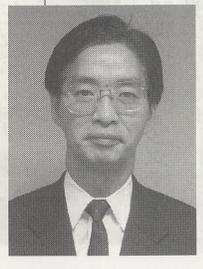
清陵を卒業してから、三三年たった。電電公社に入社して、民営化のNTTから、NTTドコモに転籍し、技術の研究所から業務系の研究所を最後に退職し、現在はNTTドコモの請求書発行・人材派遣の子会社にいる。

清陵勉強会の存在を知ったのは同期の有賀一温君からであり、有賀君もやったことがあるし、ケータイ電話について勉強会をやりたいので、講師をやつてほしいと言われ、恐れ多くも「日本のモバイル社会」のテーマで平成一九年二月に講演させていただいた。

その後七〇回生の飯島由美子さんから毎回几帳面な案内をいただき、数回勉強会に参加したが、最近仕事で忙しく、あまり出席できなく申し訳なく思っているが、どこかの職場に転勤しても仕事哲学として、「日々勉強、日々改善」を部下にも合言葉にしている手前、できるだけ出席しようと思つている。

私が講演した内容は、モバイル研究

ンクレジットの東南アジア進出や、三井住友カードの銀連との提携など海外をキーワードとする多様な動きも活発化すると思われ、各社の今後の動向が注目されます。



所が、ケータイがこの一〇数年で日本の社会に急激に普及し、さまざまな光や影の部分も露呈し始め、その分析と対策をテーマに設立したドコモ内部組織ではあるが、自由で独立した研究所であったため、研究所の研究内容そのものを紹介すればよく、「健全なモバイル社会」を目指すものだった。出席者から出た質問は日本のケータイ産業に触れ、皆さん良く勉強されていると思つた。

講演後、当時同窓会長の林尚孝氏(五二回、本年六月退任)ほかたくさん著名な先輩と皆で飲み、近況等意見交換ができた。特に林氏からは「仮面の人・森隲外」(平成一七年四月同時代社刊)のご高著までいただいた。感謝感激で心から御礼申し上げる。

研究所では、たくさんの方の日本有識者とも知り合えたし、「二〇三〇年のモバイル社会ビジョン」などを発表し、単行本なども私の時代からやっと思行し始めていた。とにかく勉強すること

は多かったが、多くの講演をさせていただき、生まれて初めて日本という国に対して他の著名な有識者とともにではあったが提言をさせていただいたりもした。

現在は、ドコモの子会社で、本年一月七日のPHSサービスや六月三十日のシテイフォンサービス終了に向けたお知らせ活動をほぼ終了しつつある。このおかげでモバイル社会の影の部分の中にどっぷりつかってこられた。

最近では新たに「ケータイ安全教室」の講師を関東甲信越管内で四三名を揃え、小中高生等への教育活動、講師育成事業に携わり、まさに「健全なモバイル社会」の実践に携わっている。さらに、ドコモ内部の環境管理業務の一部を業務受託し、環境推進活動やお客様アンケート調査活動をしている。理想の岸は遠くとも、友よ、頑張るぞらよ。

七五回生吉村健二さんの作品紹介

岡谷出身の作家・劇作家の吉村さんの作品の一部です。最近では戯曲に力を入れているそうです。

童話

- 「ぼくとじいちゃんのハンバーグ」
- 「フレベル館」
- 「ともちゃんたんじょうぶ」
- 「BL出版」など多数

戯曲

- 「塔の上から」(AAF戯曲賞)
- 「太鼓八郎」(もりげき戯曲賞)など多数



No.10

カーナビゲーションを活用した 防災情報への取組み

今井 武(七五回)
本田技研工業株式会社 インターナビ推進室室長

昨年「清陵勉強会」で、ドライバーに必要な情報を提供するホンダのテレマティクス「インターナビ・プレミアムクラブ」について話しをさせていただきました。近年地震や豪雨災害が多発する中で私どもが力を入れているインターナビを活用した防災情報について、最近の取組み状況を交えて話しをさせていただきます。

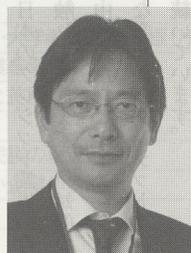
一、豪雨地点予測情報

豪雨時は視界が悪くなるばかりではなく、車のコントロールがきかなくなり、運転するには危険な状況となる。さらに、道路が冠水したことにより車両が水没するケースも増えており、豪雨に関する防災・減災情報の重要性が高まっている。

これまでにルート周辺の降雨・降雪、警報・注意報、台風情報などの気象情報の提供を行ってきたが、これに加え、身に迫る危険をピンポイントでタイムリーに提供することを目的とした「豪雨地点予測情報」を二〇〇七年より開始した。

一・二 サービス概要

豪雨地点予測情報は、日本気象協会からの1kmメッシュ単位の降水量予測



データと、インターナビの車両の通過予定時刻から約一〇分先の時間雨量三〇ミリ以上の豪雨に遭遇する地点を予測し提供。また、事前にパソコンでルートを登録しておけば、携帯メールなどで豪雨情報を出発前に受信することが可能である。

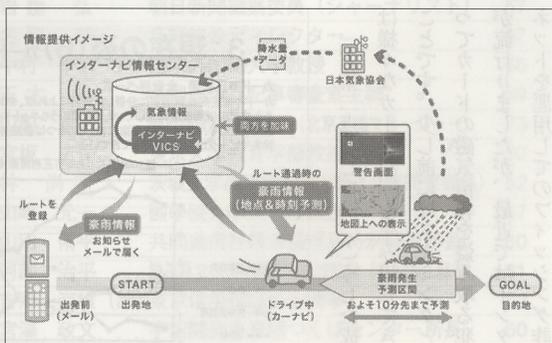


図1 サービス概要図

ナビ画面上では、豪雨予測地点へ進入する時刻と現在地からの距離を図形で表示。またルート上に豪雨発生予測地点を「！」表示し、危険な状況から

の回避を促すことで安全運転を支援している。



図2 ナビ上への表示

二、地震情報

二・一 背景

二〇〇六年の新潟中越地震、〇七年の中越沖地震、また先日の岩手宮城内陸地震など大きな地震が発生している。大きな地震が発生すると、道路の陥没や崖崩れ、建造物の倒壊等により、通行が困難になる場合がある。また、ドライバーが知らずにその地域に乗り入れてしまうと、二次災害に遭う可能性があり危険である。そこで、そのエリアに入ろうとしてい

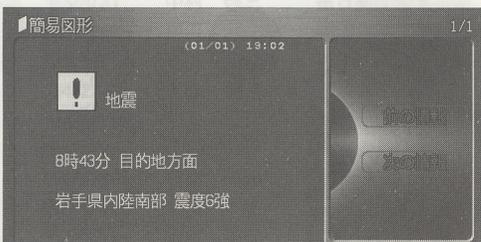


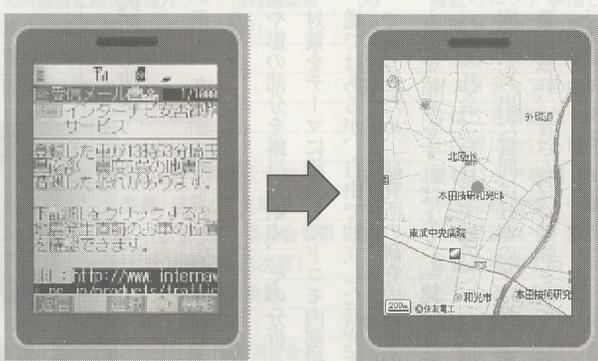
図3 地震情報画面

るドライバーやそのエリアに入っているドライバーに対して地震情報を提供するサービスを〇七年七月より開始した。

二・二 サービス概要

地震情報は、走行ルートやその周辺に、震度五弱以上の地震が発生した際に図形で警告する。

図3は、先日の岩手・宮城内陸地震(二〇〇八年六月一日八時一三分頃発生)が実際に起きた時に配信した情報である。



三、地震発生時安否確認システム

三・一 背景

ドライバーが地震で被災した時、自動的に家族等へ安否を伝えることが難しい場合もある。また家族等へ連絡をできる状態でも、安否や自車位置を伝える場合、携帯電話の通話やメールが殆どであり、その位置を正確に伝える

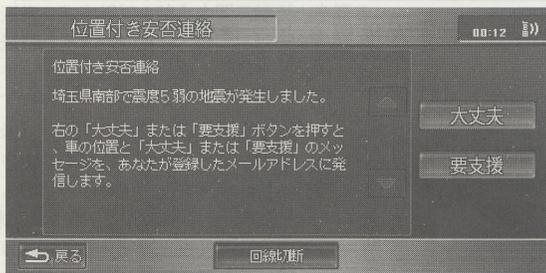


図4 地震発生時安否確認システム

ことは難しい。そこで、大きな地震に遭遇した場合、カーナビと通信を利用した「地震発生時安否確認システム」を昨年より開始した。

三・二 サービス概要

本システムは「地震情報」と同様、震度五弱以上の地震が発生したエリア内に車がある場合に自動で自車位置を事前に登録した家族等のメールアドレスに送信する。またインターナビでドライバーが安否と自車位置を伝えることも出来る。(図4)

四、通行実績マップ

大規模災害が発生した時、現場に支援に車で行かなくてはならない方、現地から避難を余儀なくされる方にとって、通行可能な道路情報は極めて必要な情報である。

私どもは〇七年七月の新潟中越沖地震で防災推進機構に協力。先日の岩手・宮城内陸地震でも会員から送られ

被災地「通れた道」公開

ホンダは、岩手・宮城内陸地震の被災地周辺で「車が通れた道」をインターネット上で公開し始めた。同社の会員制カーナビ「ナビオン」(ナビ)の会員向けサービスとして、ナビオンから送られる走行データに基くもので、試みは昨年7月の新潟県中越前地震に続いての回目。震源500m以内を通過した地域を対象に、発生5日後の10日から、前日に会員が走行したデータを地図上に表示してネットで公開している。土砂崩れや地割れで通行できない道路は、車が通れず引き返す動きから読み取れる。通行規制が行われる前に車が走行し、規制を無視して車が進入した場合も考えられる。このため、あくまで参考にとどめるが、貴重な現地情報の一つになりそうだ。(関連記事一頁)

岩手・宮城 ホンダ、ネットで <http://www.premium-club.jp/>

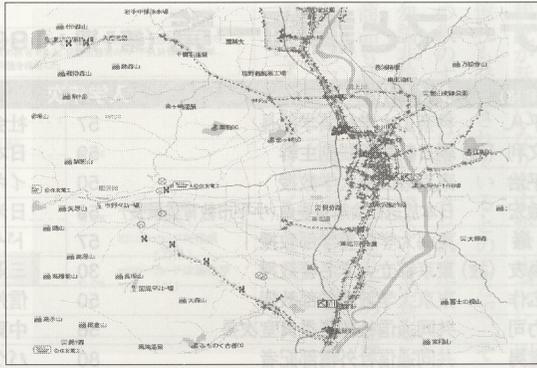


図5 岩手・宮城内陸地震「通行実績マップ」とその記事 (2008年6月21日読売新聞)

てくる走行データ(フロートインゲカーデータ)を基に「通行実績マップ」を毎日作成し一般に公開した。今後各社と連携し、さらに充実した車利用で役に立つ情報プラットフォームを構築していくつもりである。

No.11

「ホームネットワークと医療」その後

小口 喜美夫(七五回)
成蹊大学理工学部情報科学科

主任教授

二〇〇七年一月二三日に開催された清陵勉強会において、「ホームネットワークと医療」と題してお話させていただきました。本稿では、その内容の概略と、近況を報告したい。

パソコンや電話だけでなく、家庭の中にある情報機器・家電製品全体を有機的に結合したネットワークは様々なサービス・目的に利用できる可能性があるため、次世代のホームネットワークとして着目され研究開発が精力的に進められている。中でも、高齢化社会の到来にともない、家庭において実行できる遠隔医療・遠隔リハビリ・予防医療等がそのアプリケーションの一つとして注目されている。このような次世代ホームネットワークを実現するキー技術は、ネットワーク構成、ウェアラブルセンサ、データベースなどの情報通信技術(ICT: Information and Communication Technology)である(図参照)。

このような背景の中で、私の研究室では「ウェアラブルセンサを用いた歩行動作解析とそのフィードバック法」をテーマの一つとして研究を進めてきた。具体的には、加速度センサ、足裏圧力センサを装着し、歩行動作のデー

タ取得・処理。その結果を、コンピュータグラフィックス技術により動作を再現し、本人や遠隔の医療関係者にフィードバックするものである。



タ取得・処理。その結果を、コンピュータグラフィックス技術により動作を再現し、本人や遠隔の医療関係者にフィードバックするものである。また、一人として

勉強会では、通信・ネットワークから歩行動作解析まで幅広く話させていただき、出席者の先輩諸兄から興味を持っていただいた。

その後の話である。上記のような研究に関連し、自分自身のデータをここ三〇年間ほど継続して蓄積・分析している。それは「加齢によるランニングスピードの低下について」である。加齢に伴い体力等が低下することは周知の事実であるが、一般的にはそれがどの程度であるか、また、一人として

はどの程度であるかがあまり明確でない。方法はいたって簡単。一五〇〇mからハーフマラソンのレースにおけるランニングスピードが、年毎にどのように変化しているかを比較するだけである。距離とランニングスピードの関係は、距離とともにスピードが低下する(対数的にほぼ直線)ことは、一般的である。加齢に伴う絶対値の低下は、約一〇%であり、この値は、世界マスターズ陸上の種目別最高データから得

た。谷墓地では伊藤家の親族が参加された。木村岳風(本名松木利次)は、中一八回生であり、伊藤長七の強い勧めがあった詩吟の普及運動に身を捧げ、一九三六年には日本詩吟学院を創設されたことなど、紫友会の中村喜一氏から詳しく説明され、清陵同窓生にはあまり知られていない先輩の偉業に驚かされた。

懇親会や頌徳公園、伊藤家の墓前では共に伊藤長七作詞の両校の校歌を、双方の同窓生がそれぞれ歌いエールを送った。

『伊藤長七アカイブス記念フォーラム』開催から一年となる二〇〇八年六月七日、八日、フォーラム実行の母体となった寒水会は、総会を兼ねて伊藤長七所縁の地を訪ねる記念行事を行った。

六月七日は小諸にて「伊藤寒水碑(東郷平八郎揮毫)(立志山大雄寺)を訪ねたあと、島崎藤村ゆかりの「中棚荘」にて総会・粕谷一希氏の講演および懇親会を行った。翌六月八日は諏訪に移動、地蔵寺(木村岳風墓参)、木村岳風記念館、清陵・三澤先生記念文庫、「伊藤長七先生頌徳公園」、風樹文庫とまわって帰途につき、最後は雑司が谷墓地にて伊藤家お墓参りをして解散した。



「伊藤長七レリーフ前で朗読する伊藤博士さん」伊藤長七頌徳公園にて

られた値と比較して、約一〇%低い。つまり、劣化の進行が大きくないといえるが、残念なことにサンプル数が少ない。

今後、さらに三〇年ほど引き続きデータを取得できれば、より面白い結果が得られるとも考えている。他に数十年に亘ってデータを蓄積(今後の予定も含め)している方がいればご連絡いただければ幸いである。

小川勝嗣(五九回)

COLUMN

「伊藤長七アカイブス記念フォーラム」開催から一年となる二〇〇八年六月七日、八日、フォーラム実行の母体となった寒水会は、総会を兼ねて伊藤長七所縁の地を訪ねる記念行事を行った。

六月七日は小諸にて「伊藤寒水碑(東郷平八郎揮毫)(立志山大雄寺)を訪ねたあと、島崎藤村ゆかりの「中棚荘」にて総会・粕谷一希氏の講演および懇親会を行った。翌六月八日は諏訪に移動、地蔵寺(木村岳風墓参)、木村岳風記念館、清陵・三澤先生記念文庫、「伊藤長七先生頌徳公園」、風樹文庫とまわって帰途につき、最後は雑司が谷墓地にて伊藤家お墓参りをして解散した。

東京から参加したのは紫友同窓会(旧制府立五中・小石川高)一〇名、清陵同窓会三名、小諸では小諸寒水会(立志同級会)一名が現地参加した。伊藤博士さん(長七・孫)は地蔵寺から合流、頌徳公園では「寒水伊藤長七伝」の著者矢崎秀彦先生ほか清陵同窓生も参加された。また、三澤文庫では運営委員長の金子佳正氏にご案内をお願いした。雑司が

清陵勉強会テーマと講師一覧(第1期:1990年2月第1回例会~2006年8月第100回例会)

開催日	講師(敬称略)	タイトル(当時)	入学年次	テーマ
1 '90/2/20	中村 平八	神奈川大学経済学部長	57	社会主義経済の現状と展望
	高橋 文利(故)	朝日新聞論説副主幹	59	日本経済はなぜこんなにも好調なのか
2 '90/4/17	中村 平治	東京外国語大学教授	50	イギリス……国民国家か多民族国家か
3 '90/6/6	堀内 敏宏	日本放送協会解説委員(小平市教育委員長)	59	日米関係はなぜこうもうまく行かないのか……日米間の衝突
4 '90/8/28	前島 巖	東海大学教養学部教授	57	ドイツ統一の側面…労働組合の統一はどうか
5 '90/10/27	三井 為友(故)	東京都立大学名誉教授	30	三澤先生の思い出など
	宮坂 広作	東京大学教育学部教授	50	信州の青春・そのロゴスとパトス……三澤先生と三井先輩
6 '90/12/4	伊藤 力司	共同通信社編集委員室次長	56	中東情勢について
	宮坂 宣男	共同通信社外部記者	80	バグダッドから帰って
7 '91/2/26	浜 勝彦	アジア経済研究所動向分析部長(創価大学教授)	60	中国の第8次5カ年計画と経済改革の見通し……天安門以後
8 '91/4/23	岩 垂 弘	朝日新聞編集委員(ジャーナリスト)	57	今なぜ協同組合運動か……1992年ICA東京大会の意義
9 '91/6/25	名 取 康	日経映像ディレクター	57	歌謡曲とメディア……演歌は消えてしまうのか
10 '91/8/28	中村 平治	東京外国語大学教授	50	第10回総選挙とインド政治の方向
11 '91/10/29	玉 木 裕	共同通信社記事審査室主幹	59	8月革命……ソ連・共産党の今後
12 '91/12/10	山田 雄一	朝日新聞運動部記者(北京五輪マネージャー)	73	バルセロナ五輪の展望
13 '92/2/27	宮坂 広作	東京大学教育学部教授	50	生きて甲斐ある人生だったか……大学教員33年を振り返って
14 '92/4/21	林 尚 孝	茨城大学農学部教授(清陵高校同窓会長)	52	農業から見た世界……都市と農業を考えて
15 '92/6/30	山崎 元一	國學院大學文学部教授	57	インドのカースト社会……分業と差別
16 '92/8/25	山田 侑平	共同通信社経済通信局特別報道部長	60	ヨーロッパ合衆国は実現するか
17 '92/10/20	阿部 治平	埼玉県立伊奈学園総合高校教諭(在中国江蘇省)	61	チベット最新事情……中国少数民族の現況
18 '92/12/15	吉澤 満雄(故)	東京信用保証協会理事	52	信用保証協会の窓口から見た中小企業の景況
19 '93/2/23	宮澤 政文	宇宙開発事業団つくばセンター所長	60	宇宙開発の現状
20 '93/4/20	今井 義博	長野銀行顧問	50	身近な外国為替と上手な利用法
21 '93/6/22	内田 良子	佼成病院心理室カウンセラー	64	子供を巡る教育の状況……登校拒否を中心として
22 '93/8/31	中村 啓三	毎日新聞編集委員(監査役)	66	55年体制の崩壊
23 '93/10/26	戸沢 充則	明治大学文学部教授(元学長)	51	歴史遺産を地域で生かす
24 '93/12/14	平林 千春	㈱コミュニケーション・システム研究所所長	69	不況下で芽生えつつある新消費スタイル
25 '94/2/22	五味 健吉(故)	法政大学教授	52	米(こめ)の開国を巡って
26 '94/4/19	功刀 正行	環境庁国立環境研究所主任研究員	69	海から見た地球環境
27 '94/6/28	(講師欠席)	出席会員全員による自由討論会	-	私の関心事
28 '94/8/30	有賀 一温	日本データクエスト㈱シニアアナリスト	75	パソコン・プリンタ業界の現況と将来
29 '94/10/25	金子 章	名古屋大学文学部教授	57	ユダヤ人とドイツ人
30 '94/12/6	唐沢 英安	ソニー㈱プロダクツ・ライフスタイル研究所長	61	ミディアム・マルチメディアの展望と条件
31 '95/2/21	横川 紀夫	㈱すかいらーく代表取締役副会長	61	昨今の外食業界事情と「すかいらーく」の戦略
32 '95/4/18	吉川 仁	㈱防災都市計画研究所所長	69	防災ワークショップ 諏訪の防災に提案する……阪神・淡路大震災から
33 '95/6/27	春山 明哲	国立国会図書館(日本近代史)	68	アジアに遺された日本の関係資料を巡って……もう一つの近代日本と植民地
34 '95/8/29	中村 梧郎	報道写真家	62	戦場の枯葉剤
35 '95/10/31	長瀬 价美	新和物産㈱代表取締役社長	59	北朝鮮経済の現状と自由経済解放区の紹介
36 '95/12/19	伊藤 力司	共同通信社経済局海外リスク情報編集長	56	最近のロシア事情と今後の展望
37 '96/2/27	林 四 郎	㈱小学館顧問(前専務取締役)	45	出版マスコミの裏側
38 '96/4/23	戸苅 晴彦	東京大学教養学部教授	-	中高年の体力と健康
39 '96/6/25	鎌倉 悦男	国際放映㈱プロデューサー	57	マスメディアの中のテレビ放送
40 '96/8/27	柳澤 睦郎	日本大学芸術学部講師	-	今は亡き師匠たちの得意術……落語から見た江戸風俗
41 '96/10/29	西川 秀男(故)	21世紀情報出版研究所所長	-	出版界における電子出版の課題と展望
42 '96/12/10	小林 和男	日本放送協会解説主幹(作新大学教授)	62	最新ロシア事情(※終了後今後の勉強会のあり方を討議した)
43 '97/2/19	堀江 義人	朝日新聞編集委員(前北京支局長)	-	中国最新事情……香港返還など
44 '97/4/23	波多野里望(故)	学習院大学教授・国連人権小委員会委員	50	人権の流れ……難民を中心にして
45 '97/6/24	赤羽 隆夫	景気探偵(元経済企画庁事務次官)	-	景気を探偵する
46 '97/8/26	小林 一博(故)	出版評論家・日本文芸家協会会員	-	どうなる本の定価……規制緩和と著作物の再販制
47 '97/10/21	藤森 照信	東京大学教授・路上探検家	59	自然と建築についての新提案
48 '97/12/9	小川 勝嗣	昭石化成㈱代表取締役社長(東京清陵会長)	59	エネルギーを巡る最近の話題
49 '98/2/24	岩 垂 弘	ジャーナリスト	57	キューバ取材を終えて……現地の最新事情
50 '98/4/21	山口 豊(故)	千葉大学名誉教授	50	医者のお話
51 '98/6/30	小口 禎三(故)	岩波映画製作所会長	36	映画「長江悠々」本邦初上映と中国三峡ダムを語る
	神馬玄佐雄(故)	岩波映画製作所映画監督	-	映画「長江悠々」本邦初上映と中国三峡ダムを語る
52 '98/9/1	野澤宇太造	㈱東芝 環境事業本部副本部長	64	環境問題を巡る諸問題……企業人として
53 '98/10/27	原 不二夫	アジア経済研究所主任研究員	65	マレーシア今昔
54 '98/12/8	小野田明彦	農水省中国農業試験場開発部研究室長	-	従来の玄米を越える発芽玄米の不思議な力
55 '99/2/23	佐藤 建男	東京都荒川区立小学校教諭	-	教育現場を巡る諸問題
56 '99/4/20	林 尚 孝	茨城大学農学部長・東京清陵会副会長	52	内燃機関と技術革命……技術文明の爛熟と閉塞
57 '99/6/29	名 取 将	日本放送協会チーフアナウンサー	61	「小さな旅」……暮らしの輝きを見つめて
58 '99/8/31	両角 俊人	郷土史家	50	自分史の草稿を読む……郷土史発見の楽しさ
59 '99/10/26	本田 雅和	朝日新聞社会部記者	-	原爆投下を巡る日米間の意識の差
60 '99/12/7	藤森 正文	フジテレビジョン技術局設備計画部長	66	ビデオ撮影・編集のヒント
61 '00/2/29	堀田 俊夫	KJ法実践家	56	いま何が問題か……KJ法による討論会

62	'00/4/25	堀田 俊夫	KJ法実践家	56	「瀕死の過渡期社会」の原因は何か
63	'00/6/27	高尾 利数	法政大学社会学部教授	49	イエスはキリスト教の開祖ではない……新約聖書の登場
64	'00/8/29	内田 良子	心理カウンセラー	64	最近の少年事件を考える
65	'00/11/7	宮本 康昭	弁護士・日弁連司法改革委員	-	市民の司法を目指して……日弁連の提言
66	'00/12/5	三浦 久	信州豊南女子短大教授・フォークシンガー	67	今伝えておきたいこと……フォークソングとともに(演奏あり)
67	'01/2/27	桐谷 征一	本納寺住職・文学博士・立正大学講師	-	宮沢賢治のマンダラ世界……その文学に於ける表象
68	'01/4/24	中澤 澄行(故)	(株)ダブリュー・エー代表取締役	58	環境問題を考える……問題点と解決への道程
69	'01/6/27	浜 勝彦	創価大学教授	60	西部大開発と日中関係の可能性
70	'01/8/28	陳 梅卿	国立成功大学教授(台湾)	-	健在の台湾、これからの台湾……大陸中国との関係は?
71	'01/10/30	塚原 重雄	山梨医科大学副学長・付属病院長	57	目は心の窓:老化と目……緑内障を中心に
72	'01/12/4	山崎 元一	國學院大學文学部教授	57	アフガンの古代仏教美術
	'01/12/4	清水 真幸	JICA専門員(農林水産省)	59	パキスタンの現状
73	'02/2/26	高尾 利数	法政大学名誉教授	49	イスラエルとパレスチナ人の和解は可能か
74	'02/4/23	小平 克	元都立高校教諭	58	森鷗外……エリス事件異説
75	'02/6/25	伊藤 力司	ジャーナリスト	56	ブッシュ政権の危険な世界戦略
76	'02/8/27	丸山 茂夫	前CRC総研常務取締役	59	衛星による地球観測
77	'02/10/29	竹岡 勝美	元防衛庁官房長	-	不戦の誓いと有事立法
78	'02/12/10	中村 平治	東京外国語大学名誉教授	50	現代世界の原理主義
79	'03/2/18	阿部 治平	青海師範大学民族師範学院日語系教員	61	チベット高原の東北角にて……泣き笑い生活誌
80	'03/4/15	高梨 昌	信州大学名誉教授・日本労働研究機構会長	-	今日の社会・経済政策の潮流……構造改革路線の問題点と帰結
81	'03/6/24	五味 俊和	前日本書籍出版協会専務理事	50	出版界の現状と課題
82	'03/8/26	齋藤 寛	長崎大学学長(前・医学部長)	58	環境カドミウム・イタイイタイ病・日本人の健康……30年のフィールドワークの教訓
83	'03/11/4	小林 正弥	千葉大学法経学部教授(小林弥六氏長男)	-	非戦平和の新しい論理と方法……反テロ世界戦争に抗して
84	'03/12/11	羽田田弘志	朝日新聞学芸部記者	76	テレビのデジタル化がもたらすもの
85	'04/2/19	高橋 文利(故)	長野県下諏訪町長	59	脱ダム町長の論理
86	'04/4/6	内田 雄造	東洋大学工学部教授(64回内田良子氏夫君)	-	地域再生とまちづくり・むらおこし……コミュニティワークの活用
87	'04/6/29	由井 正臣(故)	元早稲田大学文学部教授	-	田中正造研究雑感
88	'04/8/31	上島 武	元大阪経済大学学長	57	20世紀とソ連邦
89	'04/11/2	茅野 實	長野県環境保全協会会長・八十二銀行顧問	52	環境問題と長野県(一部田中県政の現状にも触れる)
90	'04/12/7	降幡 賢一	朝日新聞編集委員(東京本社社会部)	66	オウムとは何だったか
91	'05/2/22	山田 侑平	人間総合科学学学助教授	60	日本の国際化とは
92	'05/4/26	河西 千廣	アロカ(株)顧問・工学博士	60	超音波(エコー)医用画像装置の進歩……日本は世界のバイオニア
93	'05/6/28	加用 利彦	財務省主計局主査	78	我が国の高等教育財政を考える
94	'05/8/30	齋藤万比古	国立精神・神経センター精神保健研究所 部長	70	思春期の子どもの心の問題を理解する糸口をめぐって
95	'05/10/25	宮澤 政文	前静岡大学教授、工学博士	60	宇宙技術開発の近代化と近未来について
96	'05/12/13	中村 梧郎	前岐阜大学教授、報道写真家	62	枯葉剤、そして戦後30年のベトナム
97	'06/2/21	北谷 勝秀	元国連事務次長補、NPO2050理事長	-	世界の人口問題とどうつき合う?
98	'06/4/18	飯澤 文夫	明治大学文学部講師、明大図書館庶務課長	72	武井武雄の業績と岡谷
99	'06/6/20	遠藤耕太郎	共立女子短期大学講師	88	母系社会の男と女(中国西南部の少数民族モンソンの社会システム)
100	'06/8/29	中村 平治	東京外国語大学名誉教授	50	インド往還50年
		宮坂 広作	東京大学名誉教授	50	「清陵の伝統」について考える

清陵勉強会テーマと講師一覧(第2期:2006年12月第101回例会~2008年8月第111回例会)

101	'06/12/25	宮坂 宜男	共同通信外信部	80	アメリカ大統領の才覚
102	'07/2/27	柳沢 治通	(株)NTTドコモ モバイル社会研究所副所長	75	わが国のモバイル社会
103	'07/4/24	今井 武	本田技研工業(株)インターナビ推進室室長	75	テレマティクスの現状と将来動向
104	'07/6/24	高梨 昌	元雇用審議会会長	-	少子高齢化を伴う人口減少社会での雇用戦略
105	'07/8/28	土橋 光廣	元セイコーエプソン専務(バーステクノロジー協会会長)	52	エプソン物語とイノベーション
106	'07/10/23	小口喜美夫	成蹊大学理工学部教授	75	ホームネットワークと医療
107	'07/12/13	小泉 史憲	(株)ライブ常務取締役	74	カード社会の現在と今後……そのもつ光と影
108	'08/2/26	土屋 彰男	東日本高速道路(株)常務執行役員	74	道路公団民営化その後
109	'08/4/22	三橋ひさ子	歴史教育者協議会会員	71	教育の現状(今、子どもたちは)
110	'08/6/24	岩本 敏男	(株)NTTデータ取締役常務執行役員	74	情報技術の進展と金融業界の動向
111	'08/8/26	飯田 明	医師	75	在宅医療について……自宅で大往生するために

「東京清陵会」ゴルフ同好会

第15回ゴルフコンペのご案内

会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

- 日時:10月21日(火)8時30分集合
 - 場所:常陽カントリー倶楽部(秋葉原駅から筑波エクスプレスで45分)
 - プレー代:約14,000円 会費:5,000円
- 参加希望の方は、電話:03-3518-2385 スタジオパラム=清水(84回)まで。FAXの場合は、住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、お申し込みください(FAX:03-3518-2386)。
- 幹事=藤森宏一(63回)、大島則夫(75回)、小海健治(84回)

昨年10月27日に行われた第14回ゴルフコンペ。台風の影響もあり参加者は11名。優勝は河合信也さん(63回)。



あなたの町のお医者様

現在、東京清陵会同窓生の約200名が医学・医療各分野で活躍されています。そこで今回は我々の身近で、医院および病院を開業している医師の方々の一覧を作成してみました。皆様の生活の一助になればと考えています。なお、多忙のなかで協力いただきました医師の皆様に感謝いたします。

回	氏名	医院(病院)名称	診療科目	郵便番号	所在地	電話番号
【東京都】						
77	植野 芳和	松翁会歯科診療所	歯科	100-0004	千代田区大手町1-5-4 大手町フィナンシャルセンター3F	03-3201-3362
73	小池 清教	小池医院	内科, 外科, 皮膚科, 泌尿器科, 美容形成科, 美容外科, 胃腸科	103-0022	中央区日本橋室町1-12-9	03-3271-0813
52	藤森 克男	藤森耳鼻咽喉科医院	耳鼻咽喉科, 気管食道科	107-0062	港区南青山5-1-22 青山ライズスクエア3F	03-3409-6444
86	加藤 正治	高輪歯科	歯科	108-0074	港区高輪2-16-53 伊皿子二番館3F	03-3443-9900
83	田中 妙	デンタルクリニック アイ(完全予約制)	口腔外科, 歯周病, 咬合治療	113-0022	文京区千駄木5-39-2 アイ	03-3828-8502
68	矢崎 智也	本郷参丁目歯科医院	歯科	113-0033	文京区本郷4-2-2 北信ビル2F	03-3814-6555
60	二木 隆	二木耳鼻咽喉科医院・めまいクリニック	耳鼻咽喉科, めまい(日本めまい平衡医学会顧問)	134-0084	江戸川区東葛西5-13-9-101	03-3877-4133
84	増田 和恵	東陽歯科クリニック	歯科	135-0016	江東区東陽1-16-14	03-5606-8391
63	赤羽根 巖	赤羽根医院	内科, 小児科, 外科	136-0074	江東区東砂2-1-15	03-3648-3622
80	工藤 千秋	くどうちあき脳神経外科クリニック	脳神経外科, 心療内科, 神経内科, 整形外科, 訪問診療・看護・介護	143-0016	大田区大森北1-23-10	03-5767-0226
44	五味 誠	馬込橋医院	内科, 放射線科	143-0027	大田区中馬込3-26-8	03-3771-3509
43	味澤 喜三	味澤医院	耳鼻咽喉科	145-0067	大田区雪谷大塚町6-2	03-3720-6257
83	岡本 徹	岡本歯科医院	歯科一般	146-0091	大田区鶴の木2-15-19	03-3759-4184
69	権東 明	代々木クリニック	皮膚科, アレルギー科	151-0053	渋谷区代々木1-38-5 KDX代々木ビル4F	03-3374-7291
87	吉田 敏英	吉田デンタルクリニック	歯科一般	152-0004	目黒区鷹番2-21-3	03-3711-9000
91	伊藤 大助	洗足整形・形成外科	整形外科, 形成外科, 美容皮膚科	152-0012	目黒区洗足2-7-15-202	03-5704-7733
75	矢島 隆	矢島整形外科	整形外科	156-0043	世田谷区松原2-32-32	03-5300-6688
65	中野 明	中野医院	産婦人科, 内科, 小児科	158-0086	世田谷区尾山台3-7-13	03-3705-2551
44	荒木 實	荒木眼科医院・名誉院長	眼科	167-0042	杉並区西荻北2-9-10	03-3395-3091
81	小澤 弘	オザワ整形外科	整形外科	168-0071	杉並区高井戸西1-27-21	03-3333-8558
81	堀内 茂	堀内歯科医院	歯科, 小児歯科, インプラント	176-0022	練馬区向山4-22-8	03-3990-2525
62	竹内 洋平	竹内歯科医院	歯科一般	182-0016	調布市佐須町2-17-1	042-486-0381
59	白倉 徹哉	白倉医院	内科, 外科, 胃腸科	183-0006	府中市緑町1-18-3	042-360-0102
67	矢崎 宣利	矢崎歯科医院	歯科	185-0031	国分寺市富士本3-1-22	042-572-6171
68	小松 順一	多摩済世病院・副院長	精神科	187-0041	小平市美園町3-11-1	042-341-1611
78	大蔵 宏基	大蔵歯科医院	歯科	206-0024	多摩市諏訪4-21-1 諏訪ハイム13-102	042-371-8418
64	菊池 祥夫	菊池医院	内科, 神経内科	206-0804	稲城市百村103-1	042-378-3333
【神奈川県】						
89	矢ヶ崎隆信	ヤガサキ歯科医院	歯科	214-0001	川崎市多摩区菅4-3-32-301	044-949-1182
82	有賀 進	あるが歯科クリニック	歯科, 歯科口腔外科	221-0864	横浜市神奈川区菅田町1508	045-473-6186
42	黒河内三郎	黒河内病院	内科, 外科, 整形外科, 脳神経外科, 胃腸科, 皮膚科, 放射線科, リハビリテーション科	228-0805	相模原市豊町17-36	042-742-0211
70	倉田 文秋	くらた内科クリニック	内科	230-0062	横浜市鶴見区豊岡町2-3 フーガ3ビル5F	045-576-3370
75	飯田 明	中永谷ケアクリニック	内科(在宅医療, 緩和ケア)	233-0016	横浜市港南区下永谷5-80-28	045-826-1346
52	牛尼 俊樹	牛尼内科医院	内科	236-0017	横浜市金沢区西柴3-25-13	045-782-0644
68	笠原 斉	笠原歯科医院	歯科	236-0037	横浜市金沢区六浦東3-14-27	045-782-4500
61	北原 隆	北原医院	内科, 小児科, 放射線科	240-0051	横浜市保土ヶ谷区上菅田町59	045-381-1622
79	藤原 理彦	藤原歯科クリニック	歯科, 小児歯科, 矯正歯科	251-0871	藤沢市善行2-20-4-1F	0466-83-2468
【千葉県】						
73	林 春幸	三愛記念そが病院	内科, 外科, 整形外科	260-0806	千葉市中央区宮崎2-11-15	043-261-0411
64	五味 勝	エーデル歯科クリニック	歯科	261-0011	千葉市美浜区真砂5-35-13	043-279-0030
52	千野宗之進	千野外科医院	外科, 胃腸科, 整形外科	264-0007	千葉市若葉区小倉町1753-10	043-232-2411
65	辛 秀雄	東船橋病院	脳神経外科, 胃腸科, 外科, 内科, 循環器科, 呼吸器内科, 整形外科, リハビリテーション科, 企業集団健康検診, 人間ドック	274-0065	船橋市高根台4-29-1	047-468-0011
56	青木 瑞枝	青木眼科	眼科	275-0011	習志野市大久保1-29-15	047-475-1069
49	笠原 俊彦	木野崎病院・理事長 梅郷メンタルクリニック	精神科, 神経科, 心療内科 心療内科	278-0002 278-0022	野田市木野崎1561-1 野田市山崎1850-1 梅崎メディカルプラザ2F	04-7138-0321 04-7126-2221
81	北條 史彦	小張総合クリニック・院長 (小張総合病院・外来部門)	総合内科(院長担当) 他 全17科	278-0004	野田市横内20-1	04-7126-1166
【埼玉県】						
58	牛山 敏	牛山医院	内科, 外科, 胃腸科, 小児科, 皮膚科, 泌尿器科	339-0067	さいたま市岩槻区西町4-2-4	048-756-1219
【茨城県】						
56	小泉 幸雄	小泉チルドレンズクリニック	小児科	316-0003	日立市多賀町5-15-10	0294-35-8212
【栃木県】						
74	瓦井 昭二	川入歯科医院	歯科	322-0015	鹿沼市上石川1526-51	0289-76-3740
【静岡県】						
86	長谷川幸男	グリーンデンタルクリニック	歯科	421-0132	静岡市駿河区上川原8-3	054-257-2628

二〇〇七年度東京清陵会総会報告

第四一回総会は二二二名の参加で実施

千葉義夫(七四回)

第四一回東京清陵会定期総会・懇親会は、二〇〇七年一月十九日、千代田区のアルカディア市ヶ谷で開催された。

参加者は、来賓一名を含め、二二二名であった。とりわけ、今回は今後の活動をより活発なものにしていくため、若い世代への積極的な参加を募った。現役学生会員が二三名、九四回以降の会員が二二名と若年層の参加が一部に達したことが特筆される。

今回は、定期総会と懇親会を明確に区別し、同施設内の別会場での実施となった。定期総会は午後五時より開始し、つつがなく議事を終了。午後六時より懇親会を行った。

懇親会では、来賓の古原正之・清陵高校長(六九回)の挨拶、林尚孝・前



旧制派訪中学校 派訪清陵高校同窓会

会長(五二回)による東京清陵会の歴史と歩みを振り返る話の後、和やかに懇親の会が始まった。

新趣向として、今回は、現役学生・若手会員諸君のために同窓生による「異業種交流」のテーブルを設置し、

二〇〇八年度本部定期総会報告

六月二十八日ホテル「紅や」で、三四〇余名の参加者を得て大盛況

●総会開催まで

二〇〇七年五月八日に行われた七四回生との合同会議から、我々七五回生の二〇〇八年度定期総会に向けての活動が始まりました。学年幹事である柳平千代一君は茅野市長という立場上、公務で多忙を極めているため、小野繁男君に学年幹事代行をお願いし、要の役目を担ってもらおうとしました。更に総務部会、会報部会、総会運営部会の各担当部長を決定し、準備作業に入りました。

同窓会報の編集は、栗林利治が部長となり、会報編集委員の協議の結果、第三四号は海外での清陵OB、OGの活躍に焦点を当て、海外在住または駐在経験のある同窓会生に原稿を依頼し、その経験から海外より見た日本や清陵のことなどの意見、感想を伺う企

就職活動等において役立つことを考えての場も設け、参加した若年会員諸君と、それぞれの業界の同窓生との交流を行った。また、会員有志からの賞品提供による抽選会も実施して大いに盛り上がった。

最後は恒例の校歌斉唱。七三回生より引き継がれた「千萬人」の青ハッピーとともに声高らかに高校時代を偲び校歌を歌いあげた。午後八時四五分に閉会。

栗林利治(七五回)

画としました。幅広い分野の方々から

二〇編の原稿を拝受し、更に三編の特別寄稿もあり、従来三ページを占めていたクラブ後援会会員リストを一ページ半に凝縮するという苦肉の策を用いて、全ての原稿を掲載し、二〇〇八年五月二三日に無事に発行いたしました。なお、細田直史君(七五回)が清陵の現教頭であるという幸運に恵まれ、学校と円滑な連絡をとることができました。

記念講演に関しては総会運営部会にて検討の結果、諏訪六市町村のうち二市一町一村の首長を清陵同窓生が務めていることを鑑みて、今後の諏訪についての意見交流と方向性を探るパネルディスカッション形式とし、総会運営部長の北村卓也君をコーディネーターとして、準備を進めることとなりました。

また、懇親会アトラクションは浜松市を中心に音楽活動をしている七五回生の藤森潤一君に参加を要請し、他学年OBの参加もお願いして、「諏訪清陵高校OBスペシャルビッグバンド」を組むこととしました。更に、総会責任者に丸茂正君、懇親会責任者に小泉正幸君を任命し、本番に万全を期すこととしました。

総務部会長の藤原光郎君は我々七五回生のホームページを立ち上げ、前売りチケット販売計画、総会会計、部会間の連絡などの裏方として総会運営の実務を務めました。七五回生のHPアドレスは左記の如くです。
<http://www.levn.jp/~mitsu401/>

●総会当日

さて、心配された当日の天候は、梅雨のぐずついた天候が続く中、前夜までの雨も止む幸運に恵まれ、当日は三一回生から九九回生までの幅広い年代の多くの同窓生に参加していただきました。



新同窓会長 元清陵校長松下勲氏(59回)

第一回の定期総会は恒例に則り、女性司会者として七五回生の鏡塚恵子さんが務めました。物故会員への黙祷の

後、林尚孝同窓会長の挨拶があり、二期間四年間の同窓会長を務めた中でも、特に一〇周年記念事業を無事に成し遂げたことに触れられ、会報をはじめとして今回の同窓会総会の準備に対し、当番幹事である我々七五回生に対するねぎらいの言葉を頂戴いたしました。来賓として、本年度より校長に就任された篠原秀郷先生よりは棋士の羽生善治氏の言葉を引用し、清陵の伝統を踏まえた上で、新しい時代の感覚で現在の諸問題に対応するとの挨拶がありました。本年度は役員改選の年に当たり、五九回生の松下勲氏が推薦され、承認されました。松下新会長よりは清陵の教育改革、高校再編化などの問題に取り組み考えが示され、出席していた会員より熱い拍手が送られていました。



パネリスト 左から司会の北村氏(75回)、矢嶋富士見町長(57回)、清水原村長(57回)、今井岡谷市長(74回)、柳平茅野市長(75回)

第二部では清水澄原村長(五七回)、矢嶋民雄富士見町長(五七回)、今井童五岡谷市長(七四回)、柳平千代一茅野市長(七五回)の四首長が北村卓

也君(七五回)の司会でパネルディスカッションを行いました。清陵同窓のよしみもあって、終始和気藹々とした雰囲気の中で行われました。六市町村の合併に関しては地域ごとの温度差が感じられましたが、広域連合を活用することにより、事業コストの削減を図り、各々の市町村単独で特徴ある事業を推進したい意向が語られました。パネルディスカッション最後に箕輪町の平沢豊満町長(六三回)より発言があり、第二部のパネルディスカッションが閉会となりました。

第三部の懇親会は「諏訪清陵高校OBスペシャルビッグバンド」の演奏が行われる中、林和彦君、五味一枝さんの司会で、柳平千代一君の開会挨拶で開演となりました。今回で退任された林尚孝同窓会長には和田ちま子さんより花束贈呈があり、宮坂久臣顧問の音頭で乾杯が行われました。会場には三〇〇を越える席を用意しましたが、参加人数が予想以上となり、急遽、会場の外のホールに七五回生用の席を用意するといったハプニングもありました



清陵OBスペシャルビッグバンド



当番幹事と次回当番幹事

が、各々のテーブルで話が弾み、大盛況でした。恒例の校歌斉唱は次期幹事の七六回生の諸君が壇上にて、大いに盛り上げてくれました。宴たけなわの中、林、松下新旧同窓会長の万歳にてお開きとなりました。我々七五回生は、柳平学年幹事の音頭で紅や駐車場において「金色の民」の大音声で諏訪湖に向かって響かせ、来年の再会を誓い合いました。

稿を終わるにあたり、多数の同窓会員の方々にご出席いただき、盛会のうちを終了できたことに対し、当番幹事として心より御礼申し上げます。

六二回生の東京同級会

悪評高い「前期高齢者」の真っ只中となった六二回生の東京同級会が二月二三日、千代田区麹町のスクワール麹町に諏訪からの一三人も加わった六四人が出席して開かれた。東京開催は五年ぶりでお互いの退職人生、健康を話

題にしながら酒宴は盛り上がり、締めくくりは長い校歌を頑張つて歌い切った。今回は御柱祭の再来年に諏訪で開催の予定。 中谷範行(六二回)



中村悟郎氏写真展「戦場の枯葉剤」盛況裡に終了

昨年、多くの同窓生はじめ、心ある人々から寄せられた浄財を元に、ニューヨーク市立大学のギャラリーで、アメリカ本国では初めての「戦場の枯葉剤」写真展を開いた、フォトジャーナリスト中村悟郎氏(六二回)の国内での写真展が、六月二十八日から七月二十六日まで開催された。

枯葉剤を浴びたベトナム帰還兵タニエルの子ジェニー、右腕欠損で生まれた。NYの写真展会場で27歳になったジェニーと再会。タニエルは癌で自殺していた。



当日味わった小飼ソムリエセレクションワインの1つ



日まで、JICA横浜ビルで開かれた。中村氏の作品は、ロバート・キャパやアンリ・カルティエ・ブレッソンらが創設した世界的写真家集団である「マグナム」の創立六〇周年記念フェスティバル参加作品に、日本人としては唯一人推薦され、全世界で紹介されている。 寺島亮三(五八回)

国際ソムリエ協会会長の就任を祝つてコンパ開催

去る八月二三日に六七回生の小飼一至さんの国際ソムリエ協会会長就任の快挙を祝い、「国際ソムリエ協会会長・小飼さんを囲むコンパ」がグランドプリンスホテル新高輪のレストランテイルレオーネで開かれた。

当日は、六三回から七一回までの有志四〇名が小飼さんを囲み、昔の「ごた」に返り、思い思いの話し振りでお祝いの言葉を述べた。

気のおけない仲間同士の会であるためか小飼さん自身も本当に普段着の雰囲気でお話を楽しみ、喜んでいただいたように思えた。それだけで今回の会を開催した意味があったと思う。

もちろん小飼さんのセレクトしたワインを全員が味わわせていただいた。ソムリエの真髄であるテイステイングのご披露もあり、赤・白のワイン共に

一層深い味わいを感じられた。 守矢早苗(六七回)

東京清陵会の現況

データベースから東京清陵会の現勢をみると次のとおりである(二〇〇八・七・三一現在)。

- 一、東京清陵会会員の定義
 - ①首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉、群馬、栃木、茨城)在住の同窓生(ただし、退会申出者を除く)。
 - ②転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。
 - 二、会員現勢総数 三、八四九名
 - (住所不明者八一八名を除く)
 - ①都原則会員数
 - 東京都一八五六名、神奈川県七九三名、千葉県四七六名、埼玉県四五八名、茨城県八六名、群馬県三〇名、栃木県三二名、その他一一九名
 - ②年次別会員数(別表一)
 - ③年度別納入額及び人数(別表二)
 - 三、会費納入状況(二〇〇五・四―二〇〇八・三会計期)
 - ①納入者総数 一七七七名
 - ②年次別会費納入者数(別表一)
 - ③年度別納入額及び人数(別表二)
 - 四、会費納入に「協力」
 - 住所不明者が増えて、今後の会員把握が難しくなることが懸念される。
 - 賛助会費を含めて会費納入者は四六%、半数以上が会費未納者となっている。東京清陵会は年会費によって運営されていることを理解され、会費納入をお願いします。また、賛助金制度にも引き続き協力をお願いします。
- ※別表は15面に

別表1 年次別会員数と会費納入結果 (2008年7月31日現在)

Table with 4 columns: 回 (Year), 現員 (Current Members), 不明 (Unknown), 計(費) (Total/Fee). It contains 44 rows of data showing membership and fee trends from 2003 to 2008.

- 注1) 現員：東京清陵会に登録されている会員で、所在不明者を除く
2) 不明：以前東京清陵会に所属していたが現在所在不明のもの
3) ()内は前会計期(2005.4~2008.3)会費完納者及び前納者の人数、75歳以上(2005時点で49回以前)の会費免除会員数594名(内終身会員86名)
4) 会費納入者数1,777名と前期納入者数の差は終身会費納入その他による
5) 終身会費納入者数1,230名(内103名死去、51名所在不明、退会他31名)

別表2 年度別会費等納入額および納入者数

Table with 4 columns: 前々々々期納入額総計 (Previous periods total), 内 訳 (Details), 2002年4月~ (Apr 2002), 2003年4月~ (Apr 2003), 2004年4月~ (Apr 2004), 前期納入額総計 (Previous period total), 内 訳 (Details), 2005年4月~ (Apr 2005), 2006年4月~ (Apr 2006), 2007年4月~ (Apr 2007).

注) 前期納入額には、賛助金も会費として処理されている。

別表3 会員数と次期繰越金の推移

Table with 4 columns: 年 (Year), 会員数(名) (Members), 不明者数(名) (Unknown), 次期繰越金(円) (Next period carryover). Shows data from 1995 to 2008.

- 注1) 次期繰越金は各年の3月現在
2) 会員数、不明者数は各年の7月現在(2004年は5月現在)

2008年度収支予算(案)

Table with 4 columns: 科目 (Item), 金額 (Amount), 科目 (Item), 金額 (Amount). Divided into 支出の部 (Expenditure) and 収入の部 (Revenue). Shows budget for 2008.

(注)2008年度予算の収支差額は20,000円余剰となります。

2007年度収支決算報告(案)

Table with 4 columns: 科目 (Item), 金額 (Amount), 科目 (Item), 金額 (Amount). Divided into 支出の部 (Expenditure) and 収入の部 (Revenue). Shows actual results for 2007.

二〇〇七年度 東京清陵会会務報告

二〇〇七年度

4・10(火)「伊藤長七アーカイブス」

記念フォーラム実行委員会 林、小川、春山、小林

4・12(木) 南信同窓連理事会(新宿・中村屋レガル) 小川

4・14(土) 第五回当番幹事会議(神田シテイホテル) 七四回生九名 事務局・小川、金子、平林、寺島

4・14(土) 南信同窓連 第三五回親睦ゴルフ会 香取カントリークラブ

4・18(水) 本部 物故会員ならびに道志社先輩慰霊法要 林、小川

4・28(土) 二〇〇七年度第一回事務局会議(神田シテイホテル)

4・30(月)「伊藤長七アーカイブス」

記念フォーラム実行委員会事務局会議 小川、春山、小林

5・12(土)「伊藤長七アーカイブス」

記念フォーラム実行委員会事務局会議 小林

5・19(土) 南信同窓連総会(虎ノ門パストラル) 小川、藤森

5・24(木) 東京同窓連理事会(日本教育会館) 小川

5・26(土) 第六回当番幹事会議(神田シテイホテル) 七四回生九名 事務局・小川、金子、平林、寺島

5・26(土)「伊藤長七アーカイブス」

記念フォーラム実行委員会事務局会議 小川、春山、小林

6・2(土) (財)諏訪清陵会理事会・評議員会、同窓会本部常任幹事会・幹事会 林、生越、小川

6・9(土)「伊藤長七アーカイブス」

記念フォーラム(長野県立歴史館) 一五〇名参加 清陵関係者約七〇名

6・16(土) 第七回当番幹事会議(神田シテイホテル) 七四回生一一名 事務局・小川、金子、寺島、平林

6・30(土) 本部定期総会(ホテル紅葉) 林、生越、小川ほか東京清陵会

から多数出席

7・7(土) 東京同窓連総会(アルカディア市ヶ谷) 小川、藤森

7・20(金) 二〇〇七年度常任幹事会(南青山会館) 二五名出席

8・31(金) 二〇〇七年度幹事会(南青山会館) 三九名出席

9・19(金) 会報一八号発行

10・6(土) 東京校歌祭(日比谷公会堂) 紫友同窓会(小石川高)と合同出演

10・19(金) 第四一回定期総会・懇親会(二七・〇〇〜二二・〇〇アルカディア市ヶ谷) 二二名出席

10・27(土) 第一四回ゴルフコンペ(栃木インターICC)

10・28〜29(日) 南信同窓連第二〇回親睦旅行会(昼神温泉) 林、小川

12・1(土) 二〇〇七年度第二回事務局会議(神田シテイホテル)

12・6(木) 南信同窓連忘年会(新宿・中村屋レガル) 藤森、清水、上

12・13(木) 東京同窓連理事会(日本教育会館) 小川

1・18(金) 南信同窓連新年会(新宿・中村屋レガル) 小川、藤森、生越、上條

2・2(土) 東京同窓連新年会(アルカディア市ヶ谷) 小川、藤森、生越

2・16(土) (財)諏訪清陵会理事会・評議員会、同窓会本部常任幹事会・幹事会 林、生越、小川

二〇〇八年度事業計画(案)

一、第四二回定期総会の開催一〇月十七日(金)アルカディア市ヶ谷

総会(二七・〇〇〜一七・五〇〇の間) 懇親会(一八・〇〇〜二二・〇〇) 富士の間

当番幹事 七五回生

二、「東京清陵会だより」第一九号の発行

三、寒水会「伊藤長七アーカイブス」

一周年記念行事(実施済) 紫友同窓会(小石川高校)・小諸寒水会・伊藤家・諏訪清陵同窓会

四、東京清陵会ゴルフコンペの開催
五、常任幹事会、幹事会、事務局会議の開催

六、清陵高校同窓会本部事業への協力
*総会および懇親会、常任幹事会および幹事会、物故者慰霊法要への出席、その他

* (財) 諏訪清陵会 理事会および評議員会への出席

七、郷里同窓会関係団体への参加
*長野県高等学校同窓会東京連合会(東京同窓連)への協力

*長野県南信地区高等学校同窓会東京連合会(南信同窓連)への協力
(親睦旅行、ゴルフ会、その他)

次期役員人事に ilişkin (案)

会長 小川 勝嗣(59)

副会長 藤森 宏(63)

金子 充宏(65)

生越万理子(66)

平林 千春(69)

平林 千義(67)

有賀 朝彦(63)

今井 恒夫(62)

小林 國利(62)

小平 裕(42)

寺島 敏郎(50)

林 尚孝(52)

湖上 良子(56)

顧問

編集後記

勉強会事務局メンバーになったときに、一九号は勉強会特集と決めていました。原稿執筆いただきました講師の皆様および関係各位、お忙しい中ありがとうございました。

訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

氏名	年次	逝去年月日
古山 二郎	(25回)	2008.2.15
酒井猛之助	(28回)	1999.11.6
柴田 浩	(28回)	2007.
久保田 力	(32回)	2007.3.7
小池 次男	(32回)	2006.10.1
米山寅太郎	(32回)	2007.4.19
伊藤 文夫	(33回)	2005.12.4
河西 達夫	(34回)	1998.3.17
島田 俊郎	(35回)	2007.3.31
木下 恒哉	(36回)	2004.12.16
小口 正七	(37回)	2006.10.16
小島 邦一	(39回)	2006.2.7
小口 眞	(41回)	2007.12.24
大蔵 昇	(42回)	2008.5.13
関 昌直	(42回)	2007.12.30
小川 一吉	(43回)	2008.1.
帯川 要	(43回)	2007.10.25
上田 達雄	(44回)	2007.11.14
下島 邦弘	(45回)	2007.4.29
矢島 彦一	(45回)	2006.8.28
小澤 享	(47回)	2007.10.12
今井 功	(48回)	2007.3.20
佐藤 辰男	(48回)	2007.4.22
清水 健資	(48回)	2007.8.4
千野 厚	(49回)	2007.5.6
石城 従吉	(50回)	2007.8.8
大谷 遥	(50回)	2007.10.16
田中 康穂	(50回)	2007.9.
波多野 望	(50回)	2008.3.16
降幡 和人	(50回)	2008.2.22
渡辺 和清	(51回)	2007.1.29
小海 孝造	(52回)	2008.1.18
岩波 紀久	(56回)	2007.10.27
大木 征太郎	(60回)	2008.1.14
立石 廣男	(60回)	2007.6.9
武井 慶吉	(61回)	2006.12.16
林 純吉	(61回)	2008.7.6
笠原 政樹	(63回)	2008.7.23
佐藤 良和	(70回)	2006.8.28
青木 明	(72回)	2006.4.20

●事務局に連絡が入った方

●お詫びと訂正

東京清陵会だより18号の訃報欄で、小松清美様(43回)と記載しておりますが65回生の小松清美様と間違えて掲載したものでした。ここに謹んでお詫びして訂正いたします。